RMCA初の女性理事長誕生

リスクマネジメント普及させ社会奉仕を

NPO法人「日本リスクマネジャー＆コンサルタント協会」横井 千香子理事長に聞く

リスクマネジメントの普及に努めるNPO法人「日本リスクマネジャー＆コンサルタント協会」（東京・虎ノ門）では今年1月に理事長の改選を行い、初の女性理事長として㈱キュービタス顧問の横井千香子氏が就任した。大手クレジットカード会社でパートタイマーから取締役まで登りつめ、過去には日経ウーマンのウーマンオブザイヤーにもノミネートされるなど特異な経歴を持つ横井理事長に、協会運営の抱負などを聞いた。

雇用の両端からRMを実践

パートタイマーから取締役へ

―　これまでのリスクマネジメントとの関わりは。

横井　私の年齢も50歳を越えたこともあり、人生の後半をいかに過ごしていこうかと考えた結果、大学院に入学することを決めました。大学院では「21世紀社会デザイン研究科」で比較組織論を選考しました。もともと、NPO法人やボランティアの組織づくりをしたいという思いを持っていたことや、私の人生のデザインも描けるのではないかという思いもあっての入学でした。

当時、私はクレジットカード会社でパートタイマーとしてお客様対応をしていましたが、大学院での勉学を通じて初めて、企業には危機管理つまりリスクマネジメントが必要不可欠なのだということを知りました。昼は仕事、夕方から大学院へと卒業までの2年間は必死で業務をこなし、勉強しました。会社の経営層はパートタイマーでありながらMBA目差して頑張る姿勢を評価いただき、大学院で学んだ知識を生かすよう、責任の重い部門長を任されることになりました。部門長として同じパートタイマーたちを取りまとめる立場に立ったことで、労働者と使用者の両者が雇用に対するリスクを考えていかないと組織は機能しないということは実感として持つようになりました。

その後も職場のなかでプロモーションセンター長、クレジット本部副部長など多くの業務を経験させていただき、ついにはパートタイマーであった私が一気に組織の取締役に抜擢されることになってしまいました。それまでは部下を統率する観点からRMを考えてきましたが、今度は組織全体をRMする立場になり、いってみればパートタイマーと取締役という両極端な立場からRMを体験することになったわけです。

このように組織で取締役として奔走しているときに、大学院を通じて当協会の初代理事長である加藤善治郎さんがお誘いしてくれたのが、入会のきっかけです。06年のときです。その後協会の理事に選任され、このほど理事長を任されることになりました。

―　RMに関して他にないような歩みですね。

横井　パートタイマーのときは自身で決済できる金額が数千円程度でしたが、取締役になると数億円規模にはねあがります。当然その分の責任も課せられます。すると、自身の置かれた状況に応じてどのように心境や実際の対応が変わるのかといった、まさにRM上の考え方を身を以って体感しました。加えて、大学院では知識としてRMを学んできましたので、実体験と知識の両面でRMを学んできたのが、私のこれまでの経緯です。

―　協会の取り組みで特に注力したいことは。

横井　協会でこのほど掲げたスローガンは「社会への奉仕・普及」「価値創造・協働」「ネットワーク作り」の3つです。協会ではまず、RMの有効な活用を多くの人たちに伝え、普及させることで社会に奉仕したいという考え方があります。組織の重要な役割の1つがやはり、社会に奉仕するということだと思います。だからこそ当協会の場合はRMの普及を第一に考える必要があり、そのためにもRMに関する教育研修を重要視しています。

私たちの取り組みを通じて、企業や個人の方々に何かしらの価値を見いだしてもらいたい、さらには企業間、個人間などで連携して行ってもらいたいということを「価値創造・協働」には込めています。そしてこうした考えや行動を多くの方に伝えるには仲間の協力が不可欠です。当協会には約500名の会員がおります。業種は多岐にわたり、保険業界の方は100名ほどです。「ネットワーク作り」というスローガンを掲げたように、会員のネットワークが広がるほど、当協会の掲げる理念が実現できるものと考えています。

資格認定プログラムを一新

スペシャリストの養成に力注ぐ

―　スローガンの実現のためにも教育研修に力を入れたいということですが、具体的なプログラムについて教えてください。

横井　当協会では従来から、RMのプロフェッショナルを育成するための認定プログラムを実施してきましたが、このほど認定資格の名称とプログラムの内容を改訂しました。従来の認定資格は「シニアリスクコンサルタント」やその上位資格である「CROチーフオフィサー」という名称でしたが、今回からそれぞれ「RMCA－J®上級リスクコンサルタント」「RMCA－J®チーフリスクオフィサー」に変更しました。プログラムの内容も、より実務面に役立つプログラムに改訂しました。

言わずもがなのことですが、資格は取得自体が重要なのではなく、取得後に自身が得たスキルをどう生かしていくかということが大切になります。

新たなプログラムではまず、RMに関する基礎講座と実践講座を受講してもらい、その後に各論として「コンプライアンス」「財務経理」「人事・労務」「情報セキュリティ」「戦略・経営」「広報PR」などのカリキュラムを選択してもらうことで、受講生のニーズに応じられるようなプログラムにしました。従来はどちらかというと、受講者にパッケージ型のプログラムを受講してもらうような進め方でしたが、そもそもRMの幅は非常に広範囲におよび、かつ今の社会では各分野のスペシャリストが求められているということで、より掘り下げた内容のプログラムを提供しようということから改訂を図ったものです。予定では今年の4月から新プログラムでの受講を開始したかったのですが、今回の震災の影響で、開始を数か月延期させることにしました。

―　協会には保険代理店も多くいるようですが。

横井　これからの代理店は従来以上に、消費者に対して自店の強みを示していく必要があると思います。その観点から言えば、各代理店の強みについてはさらに磨きをあげられるような、逆に弱みについては補助してあげられるような存在の協会でありたいと考えています。

―　初めての女性理事長ということで苦労もあるかと思いますが。

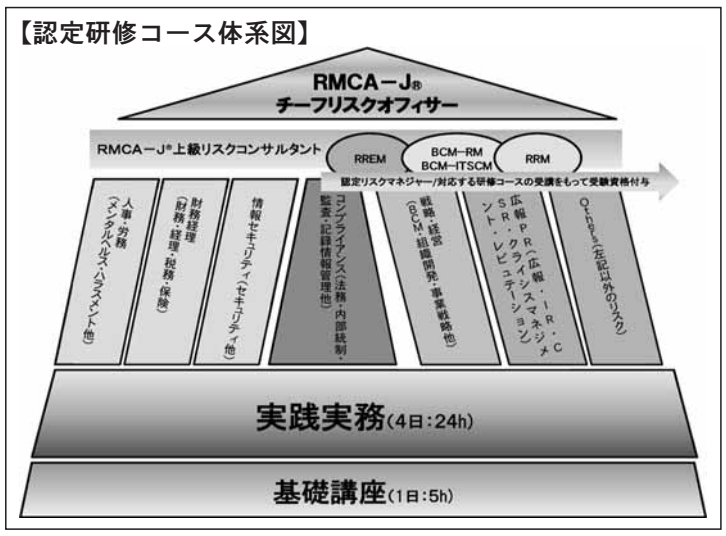
横井　そうですね、これまで業界でも女性の理事長は聞かないですね。しかし、今の時代男だから女だからという声はありません。その人の魅力は何か、強みは何か、と言う観点でリーダーを決めているように思います。

女性である私が理事長を務めたことで初めて浮き彫りになるものがあるかもしれません。あれば、それこそがRMの本質にほかなりません。ですから、発生する事象の選択は私自身がすればよいことであって、リスクが顕在化するということは良いことだと思っていますし、今回理事長を任されたことは、こうした判断能力やリスクの感性を高める意味でも非常にありがたいことだと思っています。

―　3月11日には未曾有の大震災が発生しました。

横井　今回の震災で予想外だったのは大津波とそれに伴う原発の2次災害だと思います。私たち人間はいつのときも、リスクの規模を決める基準を各自で設けていますが、その基準というのが自身で想定できる内容にプラスαでしか行えてきていなかったのだということを、今回の震災で痛感しました。その点が私たち人間の至らないところなのかもしれませんが、だからこそ常に学んで、起こりうるリスクをいかに自分なりに描き出すかが大切になるのだと思います。そしてこうした考えを協会として、一人でも多くの方に普及させていかなければならないと考えています。

―　ありがとうございました。

プロ育成のため、実務面に役立つプログラムに改善

【認定研修コース体系図】